SDGsからポストSDGsへ

和洋国府台女子中学校　三年　吉住誌允

君は SDGｓを覚えているか。SDGｓとは国際連合が２０１５年から２０３０年までに地球をより良くするために定めた十七の目標のことだ。例えば、男女の差別問題をなくす「目標五のジェンダー平等」や、地球温暖化に対応する「目標十三の気候変動に具体的な対策を」など幅広い目標がある。

現時点での進捗を見ると、安全に管理された飲料水の供給率が増加した目標六や電力アクセス率が向上した目標七など、全体の約十八%は軌道に乗っている。しかし、これらはまだ全体の二割にも満たない。さらに深刻なのは、世界平均気温が過去最高を更新し続けている目標十三や、紛争により十二分に一人が命を落としている目標十六など全体の三十二%が停滞、後退している厳しい現状である。背景には、世界的な感染症や対立の激化があり、従来の取り組みだけでは目標達成が困難であることを示している。

これらの課題をふまえ国際連合は２０３０年のその先を見据えた新たな目標である「ポスト SDGｓ」の策定を進めている。

私はこの「ポスト SDGｓ」の動きに強く賛成である。理由は大きく二つある。

一つ目の理由は、活動の主体が国や大企業からより身近な存在へとシフトするからだ。従来の SDGｓは国や大企業による大規模な活動が中心であり、私たち一般市民にとってはどこか他人事のように感じられ、当事者意識をもちにくい弱点があった。これに対して「ポスト SDGｓ」では、個人の家庭や地域コミュニティなどのローカルな活動が基盤となる。例えば、地域の食品ロスを削減する活動や住民同士での資源のシェアなどが挙げられる。社会の最小単位である家庭や地域から持続可能性を支えることで、より隅々までまんべんなく地域環境を良くしていけると考えたからだ。

二つ目の理由は、これまでの十五年間という確かな土台を活かし、さらに進化した対策を立てられるからだ。２０１５年からの取り組みを通して蓄積された膨大なデータを利用すれば、未来への課題を予測し、的確な対策を立てることができる。そしてこれまで見えなかった「なぜ対策を停滞したのか」の原因を細かく分析し、効率的なアプローチを選択することもできるだろう。過去の経験を未来につなぐためにも、「ポストSDGｓ」枠組みは不可欠な存在である。

確かに、「これまで達成できなかった深刻な課題が目標を変えるだけで解決できるようになる訳がない」という意見や「時間が経つにつれて新たな問題が増えるだけだ」と考える人もいるだろう。しかし、「ポスト SDGｓ」は国だけでなく私たち一般市民までが関わるようになれば、それによって視野が広がり今までできなかった解決策が見つかるはずだ。さらに個人が環境に配慮した選択をすることは、未来の生きやすさを高めるだけでなく、資源が再利用されるため様々な物のコスト削減などにも直結する。

このように、２０３０年以降に着目した「ポストSDGｓ」は、私たちの日常の生活に深く関わるものであり、地域社会が生まれかわる大きなチャンスであるといえる。だからこそ私は「ポストSDGｓ」に賛成だ。

目標を達成するには、家庭での太陽光発電の導入「目標十三」やエコバッグ、水筒の利用「目標十二や十四」など、今すぐできる行動を積極的に起こすことが不可欠だ。そのうえで私たちは与えられた目標のみを目指すのではなく、自分自身が生きやすい社会のあり方や、地域とのつながりを主体的に考えていくことが大切だと思う。それこそが持続可能な未来への第一歩なのだ。